



古府っ子

令和5年度 10月号
高岡市立古府小学校
学校だより
令和5年9月28日

安心安全を守れる学校に

校長 矢田 憲和

朝夕のひんやりとした空気や虫の音に秋の深まりを感じるようになりました。熱中症の危険性も下がり過ごしやすい気候の中で、学校では様々な活動が行われています。

「東日本大震災のゆれは強くなったり弱くなったりして立っているのが難しかったです。」「家で（地震が）起きるとこわいなと思いました。棚とかを固定しておかないといけないと思いました。」「富山県でも大地震が起きることがあるので、いつでも逃げられる準備をしておくことが大事だと思いました。」これは、先日富山市の四季防災館で地震体験をした5年生の感想です。体験装置ではあらかじめ足元が揺れることが分かっていて、手元のバーにしっかりとつかまってから体験が始まります。子供たちの多くは揺れが激しいことや様々な揺れ方があることに驚いていましたが、現実にはほとんど前触れもなく、心も体も構えのない状態で揺れがやってきます。富山県は地震等の災害が少なく、「立山が守ってくれとるからだいじょぶやちゃ」というあまり根拠のない安心感の中で過ごしている県民が多いと言われます。しかし、万が一学校で多くの子供たちが過ごしている時間帯に大きな地震が起こったら……ましてその後津波までやってきたら、と考えると非常に不安な気持ちに襲われます。

以前、県外のリスクマネジメント研修会で、東日本大震災を実際に経験された塩竈市の中学校の身崎校長先生の講義を拝聴しました。3月11日には、子供たちの命を守るために、教職員が子供たちに寄り添いながら避難の指示を出し、懸命に避難行動をとったこと、地域住民や帰宅困難者の避難者を受け入れ、できる限りの避難所運営に取り組んだことを話されました。私の頭の中は、同様の災害に遭遇したら子供たちの命を守るために、瞬時にどう判断し、教職員にどのような指示を出し、行動するのかでいっぱいになりました。多数の犠牲者が出た大川小学校は、その後の裁判で「教員らは大津波襲来を予見でき、裏山に児童を避難させるべきだった」「校長らは震災前に校舎周辺への津波襲来を予見できたのに、危機管理マニュアルに避難場所を明記するなどの対策を怠った」と裁判長から指摘されました。身崎校長先生の「教職員の一人一人が、『児童生徒の生命をあらゆる危機から守る』という重要な役割をもっていることを自覚しなければならぬ」という言葉が脳裏によみがえり、安心安全への思いを強くしました。



古府っ子フォトギャラリー 日々の様子は古府小HPをぜひご覧ください。古府小HP→

9/3 伏木場所大相撲に多くの古府っ子が出場し、力強い取組で活躍しました。	9/7 6年生がものづくり・デザイン科の鋳込み作業をし、錫のプレートを完成しました。	9/13 3年生のタグラグビー教室が行われました。試合らしくなってきました。
9/15 4年生はふしきふれあいの杜でクリ拾いをしました。たくさん収穫できました。	9/19 2年生が授業で奥歯の染め出しを行い、奥歯のみがき方について学習しました。	9/21 田植えをした苗が育ち、5年生は稲刈りをしました。収穫の喜びを味わいました。